

英語の呼びかけ語の談話標識的用法 (3)

The discourse marker use of English address terms (3)

松尾 文子*

Fumiko Matsuo

キーワード：呼びかけ語、談話標識、談話機能

Key words : address terms, discourse markers, discourse functions

要旨

本稿は、英語の呼びかけ語の談話標識的用法を考察する論文の第三部である。第一部では、基本的論考として英語の呼びかけ語と談話標識に関する先行研究を紹介し、さらに後編において検討すべき問題を指摘した。第二部では、呼びかけ語の4つの機能を論じた。本稿ではこれら4つの機能に関して、呼びかけ語と談話標識の違いと、両者が共起した場合の談話的な効果を述べる。

本稿の構成は以下のとおりである。第2章と3章ではそれぞれ、第二部で論じた呼びかけ語の基本的な機能と呼びかけ語の4つの機能を再確認する。続いて4つの機能について順に論じる。第4章では重要な情報や主張点の後続を合図する機能を、第5章では会話の展開の方向性を示す機能をターン・マネージメントとトピック・マネージメントの2つに分けて考察する。第6章では発話の力を調整する機能を、第7章では対人関係を調整する機能を考察する。第8章では呼びかけ語や談話標識が単独で1つのターンを構成する場合を論じ、第9章では結論を述べる。

Abstract

This is the third paper on the use of English address terms used for discourse markers. In the first paper, I introduced previous studies on English address terms and discourse markers, and I indicated some points to be considered. In the second paper, I discussed the four functions of address terms.

In this paper, I will discuss the following points: the functional similarities and differences between address terms and discourse markers, and the discursual effects of co-occurrence of address terms and discourse markers. The sequel to the previous paper is structured as follows. The basic function of address terms, and the four functions of them will be reconfirmed in section 2, and 3 respectively. In section 4, I will focus on the function of conveying important information. The function of conversational management will be dealt with in section 5. I will examine illocutionary force management functions in section 6, and interpersonal management functions in section 7. In section 8, I will discuss the stand-alone use of address terms, and discourse markers in TCU. The last section will give a brief summary.

* 札幌保健医療大学保健医療学部看護学科 Department of Nursing, School of Health Sciences, Sapporo University of Health Sciences

I. はじめに

本稿は、英語の呼びかけ語の談話標識的用法を考察する一連の論文の第三部である。第一部では、基本的論考として英語の呼びかけ語と談話標識に関する先行研究を紹介し、さらに後編において検討すべき問題を指摘した。第二部では、呼びかけ語の4つの機能を論じた。¹⁾²⁾本稿ではこれら4つの機能に関して、呼びかけ語と談話標識の違いと、両者が共起した場合の談話的な効果を述べる。

本稿の構成は以下のとおりである。第2章では前編で論じた呼びかけ語の機能を再確認する。第3章では呼びかけ語の基本的機能を述べる。第4～7章では以下の4つの機能を各章で論じる。重要な情報や主張点の後続の合図、会話の展開の方向性の提示、発話の力の調整、対人関係の調整である。第8章では呼びかけ語や談話標識単独でターンを形成する場合の機能を述べ、第9章では結論を述べる。

II. 呼びかけ語の基本的機能

呼びかけ語の基本的な機能は相手に呼びかけることで、それによって聞き手を指定し、後続発話をよく聞くように注意喚起する。特に、当該の発話の場面に複数の人物がいる場合は、話しかける相手を明確にするために呼びかけ語が用いられる。

(1) は、スペインの皇太子の婚約者アンブラと、彼女と共に行動しているラングドンが、スペイン国近衛部隊のヘリコプターで敵から逃れようとしている場面である。部隊は彼女をマドリードの王宮に連れて行くよう命じられている。ラングドンはアンブラにサグラダファミリアに行くべきだと主張するが、彼女は半信半疑である。

(1) Ambra studied Langdon a long moment. Then, with a bewildered nod, she looked toward the front seat and called, “Agent

Fonseca! Please have the pilot turn around and take us to Sagrada Familia right away!” —Brown, *Origin* (アンブラはしばしラングドンを見つめた。そして困惑気味にうなずくと、前の座席に目を向けて声をかけた [下線筆者]。「フォンセカ隊員!パイロットにすぐに進路を変えて、サグラダファミリアへ行くよう命じてちょうだい。)」

ここでは、ヘリコプター内にいる複数の人物から呼びかけ語で当該の発話の聞き手を指定している。

III. 呼びかけ語の機能

前編で論じた事柄を再確認する。

呼びかけ語の基本的な機能は、文字通り相手に呼びかけることで、呼びかけることによって相手に注意喚起し、何らかの働きかけをする。話し手は意図的な談話戦略をもって、働きかけが必要な節目で呼びかけ語を用いる。

相手に注意喚起して働きかけを必要とする4つの要因は以下のとおりである。

- ① 重要な情報や主張点が後続することを合図する必要がある：呼びかけ語を用いて、そこで会話の流れを止めることで、相手に注意喚起して後続部に注目させる。
- ② 会話の展開の方向性を示す必要がある。
 - (1) ターン・マネージメント：呼びかけ語を用いることで、発言権を獲得したり、維持したり、譲渡したりする。
 - (2) トピック・マネージメント：呼びかけ語を用いることで、話題の転換や本題の導入など、話題に何らかの変化があることを合図する。
- ③ 発話の力を調整する必要がある：当該の発話が終了したところ（発話末）で、命令や主張といった発話の力を強めたり弱めたりする。発話の力を強めるか弱めるかに関しては、用いられる場面に関わる。また、呼び

かけ語自体の語彙的特徴が発話の力の調整に結び付くことがある。

- ④ 対人関係を調整する必要がある：多くの場合、相手にとって好ましくない内容を伝えたり、負担になったり不利なことを強いる場合に、呼びかけ語を用いることで相手との関係を損ねないようにする。この場合も、呼びかけ語の語彙的特徴が関わることがある。また、呼びかけ語を用いることで、相手との距離を置く場合もある。

IV. 重要な情報や主張点の後続を合図する

重要な情報や主張点が後続することを合図する必要がある場合は、呼びかけ語を用いてそこで会話の流れを止めて、「これからあなたに向けて情報を提供しますよ」という意図を示すことによって相手に注意喚起して後続部に注目させる。

(2) はビットリアとラングドンが襲い来る敵から逃れるために教会へ逃げ込もうとしている場面である。

- (2) Vittoria slipped without hesitation between the sawhorses and headed up the staircase. “*Vittoria*,” Langdon cautioned. “If he’s still in there…”—Brown, *Angels* (ビットリアは躊躇なく木びき台の間をすり抜けて正面玄関に向かった。「ビットリア」ラングドンは注意を促した〔下線筆者〕。「もし奴がまだそこにいたら…」)

ここでは発話頭で呼びかけ語を用いて、話し手は相手に続く発話に注目するよう注意喚起して、重要なことを述べようとしている。

(3) ではある殺人事件の真相を突き止めようとするダナが、上司のマットにベンジャミンという人物から聞いた話を説明している。

- (3) “Ralph Benjamin was in France visiting his son,” Dana was explaining. “One day his

brief case disappeared from his hotel room. It reappeared the next day, but his passport was missing. *Matt*, the man who stole it and took Benjamin’s identity and told the police he was a witness to the accident is the man who murdered Paul Winthrop.”—Sheldon, *Sky* (「ラルフ・ベンジャミン氏は、息子さんに会いにフランスに行ったということです。」ダナは説明した。「ある日、彼のブリーフケースがホテルの部屋から消えました。次の日には戻っていたのですが、パスポートがなくなっていたそうです。マット、パスポートを盗んでベンジャミン氏の名を語って警察に事故の目撃証言をした、その男がポール・ウィンスロップ氏を殺したのでしょう。)」

話し手は呼びかけ語の前はベンジャミン氏から得た情報を述べていたが、呼びかけ語の後では自分の意見を述べている。呼びかけ語が話し手が最も伝えたいことをこれから話す合図となっている。

しばしば従属節と主節の間で呼びかけ語が用いられる(注1)。(4) では話し手は声を落として緊張した口調で大学の恩師ロバートに次のように言う。

- (4) “Before I go public with this information, *Robert*, I need your advice.” He paused. “I fear my life may depend on it.”—Brown, *Origin* (「(世間を揺るがすかもしれない) この情報を公にする前に、ロバート、あなたの助言が欲しいのです。」彼は一呼吸置いた。「私の命がかかっているかもしれないのです。)」

ここでは従属節と主節の間で呼びかけ語を用いることで、話し手が伝えたい後続部分の主節に注目するよう合図している。

挿入句などがあり伝えたいことが曖昧になる恐れがある際に、話し手は呼びかけ語によって後続部に注意を促すことがある。(5) は倒産寸前の法律事務所の弁護士ウォリーと、超一

流法律事務所の大物弁護士の会話である。大物弁護士はある訴訟に関して、ウォリーの事務所を利用しようとしている。今後の見通しを聞かれた大物弁護士は次のように答える。

- (5) A long, satisfying pull of the wine, and, “Based on my experience, which, as you know, *Wally*, is quite vast, I expect we'll reach a settlement in twelve months and start disbursing money right away. …”—Grisham, *Litigators* ((大物弁護士は) 満足そうにゆっくりとワインを一飲みして答えた。「私の経験からすると、ご存知のとおり、ウォリー、私は経験豊かなんだが、12か月すれば和解して、すぐに金が支払われ始めるだろうよ。…」)

ここでは挿入句 *as you know* があるために文構造が複雑になっているが、呼びかけ語を用いて後続部に注意を促し、‘is quite vast’という情報を際立たせる。さらに、文構造上必須ではない挿入句や呼びかけ語を用いることで、話し手のいかにももったいぶった態度が感じられる。

(5) では呼びかけ語を用いて聞き手に後続部に注目するよう促し、後続部が焦点化されている。談話標識も文中で用いられて後続部を焦点化する機能がある。呼びかけ語では聞き手に後続部に注目するよう促すだけであるが、談話標識では焦点化される情報の種類や、その情報を聞き手がどのように解釈すべきかが示される。『英語談話標識用法辞典』³⁾から例を挙げる。

- (6) The Angels found themselves at threshold of their office. They were silent-dumbstruck, *actually*, their throats clogged with smoke and soot and raw emotion.—Lenard, *Angels* (エンジェルたちは気づくと(焼け焦げた)オフィスの戸口にいた。押し黙ったままで、さらに言うと、煙とすすと抑えきれない感情

でのどが詰まっていたのだ。)

- (7) The man meant well, Dog supposed. He did, *after all*, bring him to the beach often.—Harrington, *Murders* (ご主人様はいい人だ、とドッグは思った。だって、実際よく僕を海岸に連れて来てくれたもの。)
- (8) “This one, *you see*, is so obvious. You know exactly whom to mistrust.”—Tyler, *Tourist* ((テレビを見ながら)「この女はね、分かるでしょ、(悪い奴だってことが) すごくはっきりしてるのよ。どう考えたって信用できない女だってね。」)

(6) の *actually* は先行発話の内容 (*silent-dumbstruck*) を明確化することを合図し、先行発話の真実性を強調する機能を持つ。ここでは、*actually* 以下に述べられている *silent-dumbstruck* の具体的な説明に焦点が当てられている。(7) の *after all* は先行発話の内容に対する判断の根拠となる理由や説明を述べることを合図している。ここでは、*after all* に後続する部分を焦点化している。強意表現の *did* にも注意されたい。(8) の *you see* は発話の状況や先行発話から受け取った情報の説明をする際に用いられ、情報の共有を確認したり理解を促す機能を持つ。ここでは、*you see* の後続部に話し手の注意を向けさせ、かつ「悪い奴だってことがはっきりしている」という話し手の意見に同意することを求めている。

次に、談話標識と呼びかけ語が共起する例を見る。(9) は離婚訴訟を担当するよう命じられた新米弁護士デイビッドと上司の会話である。

- (9) “I rest my case. I'm not cut out for divorce work.”“Oh, it sucks all night. Ninety percent of what we do sucks. We hustle the nickel-and-dime stuff to pay the overhead and dream of the big case. *But* last night, *David*, I didn't dream, and I'll tell you why. Ever hear of a drug called *Krayoxx*, a cholesterol

drug?”—Grisham, *Litigators* (「申し立てはこれで終了します。僕は離婚訴訟に向いていません。」「ああ、そりゃあいつだっただけでもないものさ。おれたちの仕事の90パーセントはくだらないもんだよ。経費を賄うために金にならない案件でも必死に取り組んで、大儲けできる訴訟を夢見ているんだ。でも夕べはね、デイビッド、夢を見なかった。理由を教えようか。クレイオックスというコレステロール低下薬のことを聞いたことがあるかい?」)

ここでは but で all night と last night を対比させ、呼びかけ語を用いて対比の対象となった last night はどうだったかという情報に注目するよう促している。

(10) は同僚のアンディに対するエミリの発言である。2人は新しく雑誌を立ち上げて成功していた。そこに超一流の出版社から買収の話が持ち掛けられた。その傘下に入るということは、2人が以前働いていた雑誌の鬼編集長が再び上司になることを意味していた。そこでアンディはエミリに慎重に考えるよう忠告した。

(10) Emily sighed as though this was exactly the reaction she'd expected. "Look, Andy, can you just agree to keep an open mind? At least until we hear what they want? I promise we won't do anything you're not comfortable with."—Weisberger, *Prada* (予想通りの反応だといわんばかりに、エミリがため息をついた。「あのね、アンディ、(元編集長の下で働くのは嫌だとか言わないで) 偏見を持たずにいることに同意してくれる? 少なくとも、彼ら(出版社)の話聞くまでは。あなたが不愉快に思うことはしないって約束するから。」)

エミリはアンディの慎重に考えるようにという先行発言を受けて、look でこれから相手にとって想定外の内容を述べることを合図し、呼びかけ語でさらにその情報に注意するよう促し

ている。

(11) のスティーブンスは乳癌の診断を受けに来た。触診をする医師に彼女が言ったことばと、それに対する医師の応答である。

(11) "I told you, Doctor, it's just a cyst." "Well, to be certain, Miss Stevens, I'd like to do the biopsy. I can do it right here."—Sheldon, *Sky* (「さっきも言ったように、先生、のう胞にすぎないんですよ。」「いや、でも確認するために、スティーブンスさん、生体組織検査をした方がいいでしょう。ここでできますから。」)

医師は well でためらいの気持ちを表しつつ相手にとって好ましくない内容を述べることを合図し、さらに呼びかけ語で後続の内容に注目するよう注意喚起している。

(12) はアムステルダム警察本部の警部とインターポールのクーパーのやりとりで、警部が部下に指示した直後の会話である。

(12) "Well, Mr. Cooper, are you satisfied?" "Not until we have her." "We will," the inspector assured him. "You see, Mr. Cooper, we pride ourselves on having the best police force in the world."—Sheldon, *Tomorrow* (「さて、クーパーさん、これでご満足ですか?」「あの女を捕まえるまでは、満足ではない。」「捕まえますよ。」警部は自信満々で言った。「ご存知でしょう、クーパーさん、我々は世界一優秀な警官隊を有していることに誇りを持っているのです。」)

警部は you see でこれから言うことを相手が知っているはずだということを強調して同意を求め、さらに呼びかけ語で後続発言に注目するよう促している。

呼びかけ語が談話標識と共起する場合、通例、談話標識 + 呼びかけ語の語順になる。談話標識でまず当該の発言を聞き手がどのように解釈すべきか、どのような種類の情報が

提示されるかが示され、さらに呼びかけ語で後続発話に注目するよう仕向ける。一方、呼びかけ語のみの場合は、単に聞き手に後続部分に対して注意喚起するだけである。

V. 会話の展開の方向性を示す

一連の会話がどのように展開するか、方向性を示す必要があるときに呼びかけ語が用いられ、聞き手に対して会話の展開に注意を促す。会話の展開の方向性は、ターン・マネジメントとトピック・マネジメントの2つの観点から捉えることができる。ターンは単一の発話で構成されることもあるが、多くの場合複数の発話で構成される。2つのマネジメントをマネジメントの種類と、ターン内や各発話において通例呼びかけ語が用いられる位置を合わせて考えると、以下のようにまとめられる。

ターン・マネジメント

- 始動 [発言権獲得] : ターン頭 (発話頭)
- 維持 [発言権維持] : ターン途中 (発話頭・発話中・発話間)
- 終了 [発言権譲渡] : ターン末 (発話末)

トピック・マネジメント

- 話題切出し・話題転換・本題導入・本題逸脱 [発言権獲得] : ターン頭 (発話頭)
- 話題転換・本題導入・本題逸脱 [発言権維持] : ターン途中 (発話頭)

このうち、トピック・マネジメントに関して、当該のターンの冒頭で話題を切り出す場合、先行部に発話がなく新たに会話を始めることもあるが、一連の会話の流れにおいて話題の転換がなされたり、本題を導入したり、本題から逸脱したりすることもある。また、話題を転換して本題を導入したり、本題から逸脱したりすることもあり、話題の操作の種類が重複することもある。以下、ターン・マネジメントとトピック・マネジメントを順に見ていく。

V-1. ターン・マネジメント

呼びかけ語を用いることで、発言権を獲得・維持・譲渡する。

V-1(1). ターンの始動・発言権獲得

呼びかけ語をターン頭で用いることで発言権を獲得し、ターンを始動させる合図となる。典型的な例として、呼びかけ語を用いて相手の発話を遮って発言権を獲得する場合がある。

(13) は殺害されたウインスロップ氏について、ダナとストーンが話している場面である。(14) はスペイン国近衛部隊のヘリコプター内での会話である。スペインの皇太子の婚約者ビダルから行く先を変えるよう命じられた近衛兵隊員のフォンセカは、その命令を拒否している。なお、ビダルは (1) では地の文でファースト・ネームのアンブラとなっているが、ここでは目下の者が目上の者に呼びかけることから、ラスト・ネームになっている。

(13) “Let me tell you what I've learned so far,” Dana said. “Taylor Winthrop was —” Jack Stone held up a hand, “Miss Evans, the less I know, the better. …” — Sheldon, *Sky* (「私が今まで調べたことを話しましょう。」ダナは言った。「タイラー・ウインスロップさんは—」ジャック・ストーンは掌を向けて彼女を制した。「ミス・エバンス、私は知らない方がいいでしょう。…」)

(14) “Ms. Vidal, as I told you, I have my orders —” “Agent Fonseca,” interrupted the future queen of Spain, leaning forward and locking eyes with him. “Take us to Sagrada Familia, right now, or *my* first order of business when we return will be to have you fired.” — Brown, *Origin* (「ミズ・ビダル、先ほど申し上げたように、私には(あなたを王宮に連れて行く)任務が—」「フォンセカ隊員」未来のスペイン王妃は彼を遮り [下線筆者]、身を乗り出して相手を見据えた。「今すぐサグラダファミリアへ連れて行きなさい。さもな

いと、帰ったら真っ先にあなたをクビにするよう命じるわよ。』)

いずれも、話し手は前話者の発話を遮る行為によって発言権を獲得している。

呼びかけ語の用い方について Rendle-Short (2007)⁴⁾は以下のように述べている。この論文は2004年に行われた豪連邦選挙時の政治ニュースインタビューを分析していて、インタビュアーはジャーナリスト、インタビューの受け手は豪首相である。「インタビュアーは呼びかけ語を用いて、話題転換を強調してインタビュー全体の組み立てや運営を操作することが多い。相手の名前を呼ぶことで、新たな見解や関連する見解を導入しようとしていることを伝える。一方、受け手は呼びかけ語を用いてインタビュアーの話の流れを遮ろうとする意図を示す」(p.1514)。すなわち、受け手は呼びかけ語を用いて遮り行為を行い発言権を獲得し、多くの場合、話し手は自分にとって好ましくない会話の流れを変えようとするということである。

次に、談話標識と呼びかけ語が共起する例を挙げる。(15)では、未来学者でコンピュータ科学者の唱える人類の起源に関してCNNが天体生物学者のインタビューを配信している。(16)は車中での会話の冒頭部分である。ウィリアムは親友の父親である銀行頭取のレスターに銀行を案内してもらった。見学後の車中で、頭取は黙り込んでいるウィリアムを見て話を切り出す。

(15) “*Well, Doctor,*”the host said, clearly uncomfortable with the direction the interview was taking.“It’s certainly been enlightening speaking with you. Thank you for your time.”—Brown, *Origin* (「なるほど、それでは博士」司会者は明らかにインタビューの先行きに不安を覚えて〔下線筆者〕いた。「今日は大変啓蒙的なお話を伺えました。お時間をさいいただきありがとうございます。』)

(16) William was silent, pensive, as they were driven home in the car.“*Well, William,* did you enjoy your visit my bank?”asked Charles Lester genially.—Archer, *Kane* (車での帰り道、ウィリアムは黙って物思いにふけていた。「さて、どうだい、ウィリアム、我が銀行への訪問を楽しめたかな？」とチャールズ・レスターはにこやかに尋ねた。)

いずれも話し手は well で後続の発話をするに当惑やためらいの気持ちがあることを伝え、さらに呼びかけ語で話を続ける意思を示して発言権を獲得している。談話標識と呼びかけ語を共に用いることで話し手は単に発言権を獲得するだけではなく、談話標識によって当該の発話を相手にどのように解釈して欲しいか、どのような意図で発話しているかを示すことができる。

V-1(2). ターンの維持・発言権維持

Walker (2007)⁵⁾では、“In everyday English conversation, talk can be produced such that it is simultaneously a grammatical ending of what precedes it, and a beginning of what follows (e.g. “that’s *what I’d like to have* is a fresh one”) と述べられ (p.1)、いわゆる pivot での語句の用いられ方が音調的な特徴も含めて分析されている。pivot とは、“not only as a possible end of one grammatical unit (e.g. phrase, clause, sentence), but also as a possible beginning of a next unit”である (p.2)。pivot を中心とした談話の構造を、pre-pivot, pivot, post-pivot としている (p.3)。得られたデータのほとんどが単一の action で、pre-pivot と pivot で遂行される action と pivot と post-pivot で遂行される action は同一であるという (p.3)。具体的には、assessments (意見・見解)、enquires (質問から応答への移行)、reportings (情報を事実として知らせる) の3つのタイプの action が多い。一例として assessment を挙げる (pp.10-15)。

- (17) [talk has been about Rob, whom Alan has invited to a party which he is organizing, but whom Maryanne—who has also been invited the party—hardly knows]
 Ala : he'll get to know you (won't [] ihh
 Mry : [(he is like he's the only
 nice person)
 Ala : he's okay
 (0.7)
 Mry : (yeah/but) he's okay
 Ala : well he's quiet but he's okay
 Mry : yeah that's what *everybody tells me* he's really quiet
 Ala : mmhm (Walker 2007: 10)

このように、会話における pivot の使用には統語的・語用論的に完了する可能性のある場所を超えて談話を続けるという機能がある (p.16)。

Walker のこの研究を踏まえて、Clayman (2012) ⁶⁾は呼びかけ語が pivot で用いられて話し手が発言権を維持し、当該のターンを延長するのにどのように機能するかを論じている。(注2) (18) のような場合である。

- (18) Jen : Oh: e-ye-ey list'n I:'m d <I went on the scale
 yestee I'm ten stone now,
 (0.5)
 Ann : Well now y[ou don't look it]
 Jen : [T e n s t o:] ne:.
 Ann : -> Y'don't look it *Jen* ah must be honest.
 Jen : Ah well ah mean t'say when you consider that I should be
 what izzit ei:ght'n a half.= (Clayman 2012:1854)

多くの場合、呼びかけ語の後続部は先行発話で遂行されている行為に関する elaboration で、[claim + address term + supportive elaboration] という形になる (p.1863)。(18) では Y'don't look it が initial claim、Jen が呼びかけ語、ah must be honest が supportive elaboration となる。Clayman によると、談話標識 you know がこの場合の呼びかけ語と同じ機能を持つ (p.1866)。

(19) は、大手法律事務所を退職して小さな事務所で働き始めた弁護士の息子を心配する父親と息子のやりとりである。息子は今の仕事は悩みを抱えた人たちを救うやりがいのあるものだと言う。

- (19) “If you don't starve.” “I'm not going to starve, *Dad*, I promise. Besides, these guys do hit the jackpot every now and then.”—Grisham, *Litigators* (「おまえが飢えないならね。」「飢えたりするつもりはないよ、お父さん、約束する。それに、(街場の小さな事務所で働く) そんな奴らだって、時には大当たりすることだってあるのさ。)」
 ここでは「飢えるつもりはない」という主張の後で呼びかけ語を用いて発話を継続し、その主張を後続部で強化している。さらに、besides 以下で主張を強化する情報を付け足している。

このような pivot における呼びかけ語の用い方で談話標識 but と共起する例を挙げる。(20) は宗教象徴学者のことばである。彼は人生の大部分を美術に費やしてきたにもかかわらず、前衛寄りの美術作品をどう鑑賞すべきか分からず困っていた。彼にとって現代美術の魅力はなお謎のままである。

- (20) “I mean no disrespect, *Winston*, but I've got to tell you, I often find it hard to know when something is 'modern art' and when something is just plain bizarre.”—Brown, *Origin* (「軽蔑するつもりじゃないんだが、ウィンストン、正直に言うと、何が『現代美術』で、何がまったく風変わりなだけなのか、区別しづらい場合がよくあるんだよ。)

ここでは話し手が呼びかけ語を介して自分の意見を述べているが、対比を示す but でその意見の方向性が明確化される。現代美術を軽蔑するつもりはないと言いながら、but 以下では軽蔑していると解釈できる意見を述べている。

V-1(3). ターンの終了・発言権譲渡

呼びかけ語をターン末で用いて発言権の譲渡を明確化する。多くの場合、疑問文末で用いられる。質問に対して相手が答えるのが普通だが、呼びかけ語によって答えるべき人が確定されたり、発言を促されることで答えやすくなる。(21) のハドソンは上院議員である。ケマルという名の子どもは誤ってハドソン家の高価な花瓶を割ってしまった。議員夫人がケマルを気遣っている様子だったので、議員は怒りを抑えた。夫人に促されて居間に戻っての会話である。

- (21) They (=Dana and Kemal) sat down again. Roger Hudson looked at Kemal. “How did you lose your arm, *son*?” Dana was surprised at the bluntness of the question, but Kemal

answered readily. “A bomb.” “I see. What about your parents, *Kemal*?” “They were both killed in an air raid along with my sister.”—Sheldon, *Sky* (2人はもう一度椅子に腰をおろした。ロジャー・ハドソンがケマルを見て言った。「君は腕をどうして失くしたんだい、ぼうや？」ダナは質問の無遠慮さに驚いたが、ケマルはあっさりと答えた。「爆弾です。」「そうか。両親はどうしたんだい、ケマル?」「2人とも空襲で死にました。姉も一緒でした。)」

疑問文末で呼びかけ語を用いて相手に応答を促し、現話し手は発言権を譲渡する。同一人物に対して異なった呼び方をするが、son では相手に対する怒りを抑えてあえて親しみを表す態度が示されている。

このようにターン末で呼びかけ語を用いることで次の話し手を指定して、現話し手は発言権を譲渡する。

V-2. トピック・マネージメント

呼びかけ語を用いることで談話の流れが変わることに注意喚起して、話題の転換や本題の導入など、話題に何らかの変化があることを合図する。まず、呼びかけ語のみが用いられる例を見る。(22) では省略部で話し手はある事件について自説を述べているが、呼びかけ語以降では話の流れを変えて相手に質問している。

- (22) “But we have no proof.” “No. But I'm right. … *Matt*, do you know anyone who worked with Taylor Winthrop who might have had a problem with him, someone who's not afraid to speak up?”—Sheldon, *Sky* (「しかし、(ジョアン・シンジーがテラスから突き落とされて死んだのであり、自殺ではないという) 証拠がないよ。」「確かにありません。でも、私は間違っていない。… マット、タイラー・ウインスロップ氏と一緒に仕事をした人で、彼とのトラブルを抱えていた可能性のあ

る人をご存知ありませんか？怖がらずに話せる人を。」)

ここでは呼びかけ語を介してある事件にまつわる一連の話題の中のサブ・トピックに話題を移行させているが、ターン・マネージメントの観点からすると、同時に発言権を維持することも示される。

(2) のように呼びかけ語のみの場合、単に談話の流れが変わって話題に何らかの変化があることを合図するだけである。一方、談話標識が共起すると談話標識によって後続する話題がどのような種類のものなのか、本題なのか、話題逸脱なのかなどが示される。

まず、話題を操作する際によく用いられる now と so の例を見る。(23)は、美術館で作品を鑑賞している教授とヘッドホンを通して説明するガイドの会話である。(24)は、久しぶりに父親の経営する金物店にやって来た娘と父の会話である。

(23) “You seem to have an answer for everything.” “That is, in fact, my job.” The guide gave an embarrassed laugh and abruptly shifted gears. “Now, Professor, if you move across the atrium toward the windows, you'll see the museum's largest painting.”—Brown, *Origin* (「君はどんなことにも答えられるようだね。」「それが、はっきり申し上げると、私の仕事ですから。」ガイドは気まずそうに笑い、急に話題を変えた[下線筆者]。「ところで教授、アトリウムを窓の方へ進むと、当館最大の絵画が見えてきますよ。」)

(24) Hal : There we go.
Tess : Dad, aren't we a little old for these?
Hal : No.
Tess : Good, 'cause I love 'em.
Hal : So, Tess, how long you here for?—*Dresses* [映画台本] (ハル：さあ、できたぞ。テス：パパ、これ(ク

マの形のパンケーキ)を食べるには、私たち少し年を取り過ぎてない？ハル：そんなことないさ。テス：そうね、私、クマのパンケーキ大好きなもの。ハル：ところで、テス、どれぐらいここにいるつもりなんだい？)

(23) では話し手は相手の発話に応答したのち now で話題転換し、さらに呼びかけ語で談話の流れが変わることを明確化して注意喚起している。このように、now はターンの途中で用いられることが多く、発話の途中で話題を転換する合図となる(松尾・廣瀬・西川編著 2015:72)。³⁾ (24) では話し手は so で話題転換して本題を導入することを合図し、さらに呼びかけ語で談話の流れが変わることを明確化して注意喚起している。

次に呼びかけ語が look と共起する例を見る。(25)は新米弁護士のデイビッドに対する上司のことばである。上司はデイビッドに待遇の話をしようとしたが、秘書がそばにいたのでやめて新たに仕事場となる部屋へと案内した。彼がそこを気に入ったと感想を述べた後、上司が次のように言う。

(25) “Look, David, we can offer a small salary, but you're gonna have to generate your own fees. …”—Grisham, *Litigators* (「さて、デイビッド、われわれはささやかな給料を出せはするが、君には自力で報酬を稼ぎ出してもらうことになるよ。…」)

look は発話時点での相手の視点を意図的に別の特定の方向に向けさせる機能を持つことから、新しい話題を導入する際に用いられる(松尾・廣瀬・西川編著 2015:224)。³⁾ここでは仕事場の話が續くと予想されていたが、給料という新たな話題を提起している。look で新たな話題の提示を合図し、さらに呼びかけ語で談話の流れが変わることを明確化して後続の発

話に相手の注意を向けさせている。

呼びかけ語は、しばしば一連の会話の closing section に移行する場所で用いられる (Rendle-Short 2007:1510)。⁴⁾(26)はオーストラリアの首相へのインタビュー、(27)はCNNで配信されたインタビューで、いずれもインタビューの終了する場所である。

(26) [IR is Kerry O'Brien; IE is John Howard]

IR: *John Howard* thanks for talking with us;
(0.5)

IE: A pleasure.

(Rendle-Short 2007:1510)

(27) (=15)

“*Well, Doctor,*” the host said, clearly uncomfortable with the direction the interview was taking. “It’s certainly been enlightening speaking with you. Thank you for your time.”—Brown, *Origin* (「なるほど、それでは博士」司会者は明らかにインタビューの先行きに不安を抱いていた。「今日は大変啓蒙的なお話を伺えました。お時間をさいていただきありがとうございます。」)

(27)では well で話し手の当惑の態度も同時に示されている。

VI. 発話の力を調整する

通例、呼びかけ語が発話末で用いられて、命令や主張、説得、反論といった発話の力を強めたり弱めたりする。発話の力を強めるか弱めるかに関しては、用いられる場面に関わる。また、呼びかけ語自体の語彙的特徴が発話の力の調整に結び付くことがある (cf. V.)。この機能では、呼びかけ語によって聞き手を終了した発話の解釈に注目させることになる。

(28) は夫婦喧嘩している妻が夫に向かって言うことばである。

(28) “Don’t curse me at, *Macon Leary!*”—Tyler,

Tourist (「私に向かって悪態つかないでよ、メイコン・リアリ!」)

夫婦間であるにもかかわらず夫をふだんは使わないフルネームで呼ぶことで、相手に有無を言わせないニュアンスと話し手の苛立ちが込められて命令の力を強めている。

(29)は私立探偵ウォーショースキーと彼女の弁護士の会話である。ウォーショースキーは25年前に地元で起こった殺人事件に関して、元恋人から再調査を依頼される。服役していた犯人ステラが刑を終えて出所した。ステラはウォーショースキーのいところが真犯人だと主張し始めたが、ウォーショースキーは納得できない。

(29) “If Stella wants to pursue an exoneration claim, that’s between her and the state. … Ignore her, ignore her, ignore her. Can you do that?” “I suppose,” I grumbled. “I want the words spelled out, *Warszawski*. I know you.” “I promise I will not talk to her, go to her house or pay attention to her slanders about my cousin or my parents.”—Paretsky, *Brushback* (「ステラが何としてでも赦免を主張するなら、それは彼女と州の問題だ。…(彼女の言い分なんて)無視しろ。無視するんだ。無視だぞ。できるね?」「たぶん。」と私はしぶしぶ言った。「どうするのかきちんと話すんだ、ウォーショースキー。君がどんな人間か(黙っているはずがないことは)分かっているぞ。」「約束します。彼女に声をかけない、彼女の家には行かない、いとこや両親に関する中傷には耳を貸さない。」)

弁護士はふだんウォーショースキーのことを Victoria か Vic と呼んでいる。発話末でふだんは使わない苗字の呼びかけ語を用いることで、発話の力を強めて実質命令していることになる。

(30)は興奮しているビクトリアを友人で医師のロティが冷静になるように説得する場面である。テレビではある女がビクトリアのいところに

ついで嘘を並べていた。それを見たビクトリアは怒りがこみ上げる。

- (30) “She’s attacked my mother for the last time.” The hoarse voice wasn’t mine. Lotty slapped me. “You will not act like this, *Victoria!*” I gasped, glared at her, but put the gun down.—Paretsky, *Brushback* (「あの女、またしても母を攻撃したのよ。」耳障りな声は自分のものとは思えなかった。ロティが私をひっぱたいた。「そんなこと(銃を取り出す)しちゃだめ、ビクトリア!」私はあえいで彼女を睨みつけたが、銃は下した。)

呼びかけ語を発話末で用いて銃を取り出すべきではないという説得の力を強めている。

(31) は発話の力を弱める例である。ある法律事務所にトリップという男とディアンナという女が押し入ってきた。彼女はトリップと結婚するために現夫との離婚を成立させたいが、報酬は支払いたくない。トリップは即座に離婚を成立させると弁護士を脅迫している。しかし、弁護士が銃を手にしたのでおとなしくなった。

- (31) Trip was still backing away, with DeAnna practically unseen behind him. “Be cool, *man*,” Trip said, both palms facing Wally.—Grisham, *Litigators* (トリップはなおも後ずさり続け、ディアンナの姿は彼の(巨体の)陰に隠れてほとんど見えなくなった。「落ち着けよ、な。」トリップは両方の掌をウォリーに向けて言った。)

トリップは直前まで相手のことを姓で呼んでいたが、親しさを表す *man* に変えている。それによって敵対心を押さえて命令の力を弱めて懇願に近づいている。

(32) では発話頭で談話標識 *you know* が、発話末で呼びかけ語が用いられている。

- (32) “Your share comes to one hundred and

one thousand dollars.” “Thank you.” Her tone was icy. Jeff said, “*You know*, you’re wrong about me, *Tracy*. I wish you’d give me a chance to explain. Will you have dinner with me tonight?”—Sheldon, *Tomorrow* (「君の取り分は10万1,000ドルだ。」「ありがとう。」トレーシーの口調は冷ややかだった。ジェフが話し始めた。「あのねいいかい、君は僕を誤解してるよ、トレーシー。説明するチャンスを与えて欲しいんだ。今晚、食事を一緒にとらないかい?」)

発話頭の *you know* で聞き手にこれから言うことに対する理解を求め、さらに発話末の呼びかけ語で主張の力を強めて理解の要求を念押ししている。

談話標識の中にも発話末で用いられるものがある。たとえば、*you know* や *you see* はこれから述べることに相手の理解や同意を確認したり、念押ししたりする機能を持つ。*actually* は見せかけと真実、予想と現実などの間にずれを認識し、意外性や驚きを込めて真実や事実を再認識していることを合図するが、発話頭で用いられるよりも丁寧なニュアンスがある。*though* は前言の内容からすると予想外のことを述べたり、前言の真実性や重要性を減じるコメントを付け加える。また自分自身の発話に対するコメントを付加する際にも用いられるが、その場合は自信を持って断定できないという態度が示される(いずれも(松尾・廣瀬・西川編著 2015)による)³⁾このように、談話標識の場合は当該の発話内容を話し手がどのような意図で発話して、聞き手にどのように解釈して欲しいかが示される。

VII. 対人関係を調整する

相手にとって負担になったり不利なことを強いる場合に、呼びかけ語を用いることで相手との関係を損ねないようにする。この場合も呼びかけ語自体の語彙的特徴が関わることがあ

る。また、呼びかけ語を用いることで相手との距離を置く場合もある。呼びかけ語は、発話頭・発話中・発話末のいずれでも用いられる。

対人関係を調整する機能を持つ呼びかけ語は、しばしばQ/Aの隣接ペアの応答部分で用いられる。テレビのニュースインタビューを分析した Clayman (2010:161)⁷⁾は、呼びかけ語は話題転換をする際に用いられるほか、ふさわしくない応答(問に対してきちんと答えない、yes-no 疑問文に対してそれにふさわしい形で答えない、など)をするときや、不同意のような'disaligning action'の前で用いられるとする。また、応答の前に呼びかけ語を用いる場合として、Clayman (2013:293-294)⁸⁾は以下を挙げている。

- ① 適切な応答をあからさまに拒否
- ② 相手の要求に対してはっきり応答するのを拒否
- ③ 先行発話の言語形式にふさわしい応答をしない
例) 選択疑問に対して、いずれかの選択肢を選ぶという形の応答をしない
- ④ 言語形式や内容の上ではふさわしいが、相手にとって好ましくない内容の応答
- ⑤ 言語形式や内容の上でもふさわしくなく、かつ相手にとって好ましくない内容の応答

また、2004年の豪連邦選挙時の政治ニュースインタビューを分析した Rendle-Short (2007:1518)⁴⁾ (cf.V- 1 (1).) でも、呼びかけ語は好ましくない内容の応答の前で用いられ、質問と応答の間の距離を大きくできるとする。

まず、呼びかけ語のみが用いられる例を挙げる。(33)ではエイバリがアビーにここからすぐ逃げろと言ったのに対して、アビーは「あなたはどうするの?」と尋ねている。

(33) Abby: What are you going to do?

Avery: *Abby*, the girl, it was a set up. On the beach, she was a set up.—*Firm*
[映画台本] (アビー: あなたはど

うするの? エイバリ:アビー、例の女だが、はめられていたんだよ。海岸の、あの女は罠だった。)

エイバリはアビーの質問に対して適切な返答をせず、質問とは直接関係のない話をする。

(34)はフランク・ギャルバンとミッキーのやり取りである。ミッキーは老弁護士で、ある事件をきっかけに落ちぶれ自堕落になった元エリート弁護士のギャルバンのことを心配している。ギャルバンはミッキーから回された事件に関わるが、大きな権力を背にした相手とやり手の弁護士に苦戦している。ギャルバンがタクシーから降りると、そこにはミッキーが立っていた。

(34) Galvin: Huh! What's the matter? Ya lost or somethin'?

Mickey: *Frankie*, we gotta talk. Come on. Come on around the corner. We'll get a cup of coffee.—*Verdict* [映画台本](ギャルバン:なんだい! どうしたんだ? 迷子にでもなったのか? ミッキー:フランキー、話がある。さあ、こっちに来いよ。コーヒーでも飲もう。)

ミッキーはギャルバンの質問に答えず話を逸らす。

次に、談話標識と呼びかけ語が共起する例を挙げる。まず、look の例から見る。Sidnell (2007)⁹⁾は、first position と second position において look で始まるターンを分析している。first position とはターンの最初で、look が一連の行為を開始・再開する合図となる (pp.387, 390-392)。second position は隣接ペアQ/AのA(応答)などを指し、look で談話の切れ目を示して再方向付け (redirection) することが合図される (pp.387, 392-395)。(35)では、デイビッドがバーテンダーのアブナーに月に1,000ドル払ったら見返りはどんなものになるかと尋ねている。

- (35) “At the rate you’re going, a thousand won’t touch it. Have you called your wife, David?”
 “*Look, Abner*, you’re a bartender, not a marriage counselor. This is a big day for me, a day that will change my life forever. …”—*Grisham, Litigators* (「お客さんの(酒を飲む)ペースだと、1,000ドルでは支払額に届かない。奥さんに電話をかけたのかい、デイビッド?」「いいかい、アブナー、あんたはバーテンダーで、結婚カウンセラーじゃない。今日はぼくの大切な日、人生を永遠に変えることになった日だぞ。…」)

デイビッドは心配している妻に電話をかけたのかどうか答えるべきだがそうはせず、look で談話の切れ目を示して再方向付けしている。さらに呼びかけ語で適切な答えをしないこと、すなわち談話の流れの再方向付けをすることを明確化することになる。

次に actually と談話標識が共起する例を見る。(36)は父と息子の会話である。

- (36) “Tell me, Oliver, have you heard from the Law School?”*Actually, Father*, I haven’t definitely decided on law school.”—*Segal, Love* (「おい、オリバー、ロースクールから連絡はあったのかい?」「実は、お父さん、ロースクールに入るかどうか、まったく決めていないんです。」)

息子がロースクールに進まないということは父親にとって許しがたいことであり、好ましくない内容の応答である。まず、聞き手にとって予想外で好ましくない情報を伝えることを actually で合図する。さらに呼びかけ語でそのことを強調すると同時に、質問と応答の間の距離を大きくして応答までの時間稼ぎもしている。

呼びかけ語の特徴として、各語の語彙的特徴によって話し手と聞き手の関係が表されることがある。その関係は常に一定であるとは限らない。呼びかけ語には発話時の状況によ

って変化する両者の関係が反映され、対人関係が調整される。(注3)たとえば、(29)の話し手は弁護士としての立場で相手に話しかけているので呼びかけ語として姓を用いている。一方、友人として呼びかけるときには、名前の Victoria や愛称の Vic を用いる。また、丁寧さ、親愛の情、怒り、苛立ち、誠実さなどの話し手の感情が表されることもある。Clayman (2010:161, 173, 178)⁷⁾も呼びかけ語で誠実さを伝えることができると述べ、談話標識の actually, in fact, to be honest も同様の機能を持つとする。また、表される誠実さは見せかけの誠実さのこともあると言う。

Rendle-Short (2007:1518)⁴⁾ (cf.V- 1 (1).) は政治的インタビューでの呼びかけ語の social levelでの機能について次のように述べている。インタビュアーのジャーナリストをインタビューの受け手の政治家がファーストネームで呼ぶことで、政治家の応答の好ましくない性質を緩和でき、両者の社会的距離を縮めることができる。

(37) は息子の義手のことで形成外科医の診察を受けた後の母親の発話である。義手には約2万ドルかかるうえ、まだ12歳で成長中なのですぐに合わなくなることが分かった。(38)は学校の集会でのスピーチがうまくいかなかった息子を母親が慰める場面である。

- (37) Dana had a sinking feeling.“I see. Thank you, Doctor.”Outside, Dana said to Kemal, “Don’t worry, *darling*. We’ll find a way.”—*Sheldon, Sky* (ダナは落胆した。「分かりました。どうもありがとうございました、先生。」外に出てダナはケマルに言った。「心配しなくていいのよ、ね、ケマル。何か方法を見つけましょう。」)

- (38) Ty : They were all laughing at me, and then I lost my words.

Marisa : You know what? It happens sometimes, *honey*.—*Maid* [映画台本] (タイ：みんなが僕を

笑ったから、僕は言葉を忘れたんだ。マリサ:ねえ、いい？それはよくあることなのよ、タイ。)

いずれも呼びかけ語で母親が息子を気遣って愛おしく思う感情が表され、親子の距離がいっそう縮められている。

次は同じ人物を異なる呼びかけ語で呼ぶ例である。(39)は恩師の大学教授に対する教え子のことばである。(40)は一部(30)と重複するが、興奮しているビクトリアを友人で医師のロティが冷静になるように説得する場面である。テレビではある女がビクトリアのいところについて嘘を並べていた。それを見たビクトリアは怒りがこみ上げる。

(39) "It's a painfully simple code, *my friend*." He winked.—Brown, *Origin* (「(BIO-EC346というの)ごく簡単な暗号ですよ、君。」彼はウィンクした。)

(40) "She's attacked my mother for the last time." The hoarse voice wasn't mine. Lotty slapped me. "You will not act like this, *Victoria!*" I gasped, glared at her, but put the gun down. I'd been clenching the clip so tightly it had sliced my palm. Blood welled around the cut. "*Vic*, have you seen—they are telling horrible lies about Uncle Boom-Boom." It was Bernie, pushing her way past Lotty to get me.—Paretsky, *Brushback* (「あの女、またしても母を攻撃したのよ。」耳障りな声は自分のものとは思えなかった。ロティは私をひっぱたいた。「そんなこと(銃を取り出す)しちゃだめ、ビクトリア!」私はあえいで彼女を睨みつけたが、銃は下した。クリップをきつく握りすぎたので、掌が切れた。血が傷口から噴き出した。「ビク、見た? ブーム-ブームおじさんのこととんでもない嘘を言ってる。」バーニーだった。ロティを押しつけて私のところにやって来た。)

(39)では通常は話し手は相手を Robert と呼んでいるが、いたずらっぽく親しみをこめて *my friend* と呼んでいる。(40)では友人の医師ロティは Victoria と呼び、古くからの友人のバーニーは親しみを込めて *Vic* と呼んでいる。

呼びかけ語は音韻的特徴によっても、対人関係を表すことができる。(41)は(10)と同じ小説からの引用で、元上司の鬼編集長ミランダが、新しく雑誌を立ち上げた元部下のアンディに自分の会社の傘下に入る契約を迫る場面である。

(41) "*Ahn-dre-ah*." Miranda's voice was quiet too, but there was something steely in it. Something determined. Andy glanced up and almost lost her balance. Miranda was staring at her with such naked, unabashed hatred that it took her breath away.—Weisberger, *Prada* (「アーンドレーア」ミランダの声も静かだったが、そこには何かゆるぎないものがあった。きっぱりした声。アンディは顔を上げると、よろけそうになった。ミランダがむき出しで恥ずかしげもなく憎しみを込めて彼女を見つめていたので、息苦しくなった。)

ここでは Andy を Andrea と呼び、さらに発音の仕方ですごいほどの苛立ちが伝わって両者の上下関係が明確になり両者の距離が感じられる。

ところで、談話標識にも対人関係調整機能を持つものがあり、聞き手に対する敬意や配慮を示す(松尾・廣瀬・西川 2015:343-344)³⁾。以下、いずれも松尾・廣瀬・西川からの引用である。

(42) Jane: Oh, speaking of work, I am meeting up with some people from the office tonight for a party. You wanna come?

Tess: *Actually*, I'm having drinks with

some friends from Milan.—*Dresses*
[映画台本] (ジェーン：ああ、仕事と言え、今夜オフィスの仲間が集まってパーティをするのよ。あなたもどう？ テス：実は、ミラノの友だちと飲みに行くことになってるの。)

(43) “Something's come up, I'm afraid, Sandy. I wondered if I might pop down a moment *actually*.”—*le Carré, Gardener* (「困ったことが起こってしましまして、サンディ。今そちらにお伺いしたいのですが、実のところ。)」

(44) Ferguson : *Well*, we have some, hu, things for you to sign here. This officially closes the account.—*Ghost* [映画台本] (ファーガソン：あの、サインをしていただきたいものが少しばかりあります。これで正式に解約となります。)

actually は意外性のある事柄を述べることをあらかじめ合図して、聞き手の驚きや不快感を和らげる機能を果たし、しばしば丁寧表現になる。*well* の場合はこの語の表すある種の容認や熟慮の態度がさまざまな発話行為を遂行する中で戦略的に用いられて、対人関係に貢献する。特に、反論・不同意・依頼・質問などの行為を遂行する場合には、相手の意見や心情を受け入れつつ、それらの発話行為を遂行することへのためらいを示し、相手に対する配慮を伝えることで丁寧さを表す(松尾・廣瀬・西川 2015:2, 260)³⁾。

このように、談話標識の場合は当該の表現で示される話し手の意図から対人関係調整機能が生じる。一方、呼びかけ語の場合は当該の表現自体の語彙的特徴によって対人関係を表すことができる。また、Q/Aの応答では呼びかけ語を用いるということ自体で相手にとって何らかの点で好ましくない、あるいは予想外の応答をすることを合図し、呼びかけ語なしで

すぐに答えるより相手が抱く意外感や唐突感を和らげることができる。

VIII. 呼びかけ語や談話標識の単独使用

呼びかけ語単独でターンを構成する場合、次例のように相手に発言を促す場合以外に、通例呼びかけ語は談話展開機能を持たないと思われる。

(45)は、ヴァチカン市国のスイス衛兵隊長と前教皇侍従(シニョーレ)との会話である。

(45) “I fear that responsibility was mine, signore.”“Then your men will oversee the immediate evacuation.”“*Signore?*”—*Brown, Angels* (「それ(枢機卿会のメンバーの安全を守ること)は私の義務だと思います、シニョーレ。」「では、部下たちに緊急避難の監視をさせてください。」「といますと?」)

ここでは呼びかけ語を上昇調で発話することで、疑問文の機能を果たして相手に答えを求めている。

一方、談話標識は単独で用いられると談話の展開機能を担うことがある。(46)は友人同士の会話で、ミッキーはそのうちの1人の子どもである。(47)は2人の弁護士の会話である。

(46) “How is life among the rug rats?” I said.“Mickey has discovered that if he doesn't eat I go crazy.”“It's good to have a resourceful kid.”“The little bastard won't eat anything but macaroni with butter on it.”“*So?*”“So it's not balanced.”—*Parker, Honor* (「子どもたちは元気?」と私は聞いた。「ミッキーは自分がちゃんと食べないと、私が怒るってことに気づいたの。」「お利口な子どもがいていいわね。」「あの子、バターをかけたマカロニしか食べないのよ。」「それで?」「つまり栄養が偏るってことよ。」)

(47) “It's eight, Jerry, with one on the fast track,

remember? Klopeck.”“Right, right. With that hot chick on the other side. Frankly, I'd like to try that one just to stare at her legs all day.”“*Anyway*.”“Anyway, let's kick into high gear. I'll call later this afternoon with a game plan. Lots of work to do, Wally, …” —Grisham, *Litigators* (「(死亡例は) 8件だよ、ジェリー。そのうち1件だけがスピード審理の対象になってる。忘れたのかい? クロペックだ。」「そう、そうだったな。被告側に、セクシーな女弁護士がいた訴訟だ。正直言って、あの女の足を一日中眺めるためだけに、あの件を陪審審理にかけて欲しいぐらいだ。」「それはそうとして」「それはそうとして、ギアを上げて先へ進もう。今日の午後遅くに電話で作戦を伝える。やるべき仕事が山ほどあるぞ、ウォリー、…」)

(46) では相手の発話の意図が分からないので、“So?”で確認している。(47) では本題から外れた被告側の女弁護士のことを話し始めた相手に対して、話題転換を示す *anyway* を用いて話題を強引に本題に戻している。このように、談話標識では談話の展開の方向を示し、相手はその方向に従って発話を続けることになる。

IX. おわりに

本稿で述べた呼びかけ語の4つの機能は談話標識とも共通するものである。各機能に関して呼びかけ語と談話標識を比較し、さらに両者が共起した場合のそれぞれの役割を論じた。呼びかけ語の使用は表現自体の語彙的・音韻的特徴、発話時における話し手と聞き手の関係、心情的な要素や社会的・文化的な要素にも影響されるため、談話標識と同列に語るのは困難である。しかし、呼びかけ語の機能は相手に呼びかけたり聞き手を指定するだけではない。談話(おもに会話)レベルで考えると、談話の構造や話し手の発話意図を示す機能を担うという意味で、談話標識的な用法があると

言える。

注

1. 呼びかけ語は、主節と従属節の間や主語と動詞の間で用いられることがある。しかし、動詞の目的語となる *that* 節内では用いられない (Zwicky 1974:799)。¹⁰⁾
2. *pivot* での使用に関して、呼びかけ語とその他の TCU *pivot* との違いを Clayman (2012:1860, 1867)⁶⁾では以下のように述べている。他の TCU *pivot* は高度に context-specific で、内容 (substance) が先行及び後続発話と grammatically and referentially coherent である。そのような *pivot* を context-specific *pivot* と呼ぶ。(47) のようなものを指す。一方、呼びかけ語はモジュール的で統語的に同一の選択的項目をつなぐことができ、多くの種類の連続的な文法単位をつなぐことができる。このような *pivot* を modular *pivot* と呼ぶ。
3. このような対人関係の調整は、Brown & Levinson (1978)¹¹⁾のポライトネスの観点から捉えることができる。ポライトネス理論の中心となるのは *face* という概念で、社会の構成員として個人が持つイメージのことをいう。*face* には positive *face* と negative *face* があり、前者は他者によく思われたいという欲求を、後者は自らの目的を追い求めることを妨げられたくないという欲求に関係している (今井 (監訳) 2014:117)。¹²⁾呼びかけ語はこのようなポライトネスを調節する機能を持つ。

文献

- 1) 松尾文子。「英語の呼びかけ語の談話標識的用法 (1)」『札幌保健医療大学紀要』札幌保健医療大学, 2017, 3, 1-18.
- 2) 松尾文子。「英語の呼びかけ語の談話標識的用法 (2)」『札幌保健医療大学紀要』札幌保健医療大学, 2018, 4, 1-12.
- 3) 松尾文子・廣瀬浩三・西川真由美 (編著),

- 『英語談話標識用法辞典 43の基本ディスコースマーカ』 研究社, 2015.
- 4) Rendle-Short, J. “‘Catherine, you’re wasting your time’ : Address terms within the Australian political interview.’*Journal of Pragmatics*. 2007, 39, 1503-1525.
- 5) Walker, G. ‘On the design and use of pivots in everyday English conversation.’ *Journal of Pragmatics*. 2007, 38(12), 2217-2243. (White Rose Research Online: <http://eprints.whiterose.ac.uk/88504/pp.1-35>)
- 6) Clayman, S. E. ‘Address terms in the organization of turns at talk: The case of pivotal turn extensions.’*Journal of Pragmatics*. 2012, 44, 1853-1867.
- 7) Clayman, S. E. ‘Address terms in the service of other actions : The case of news interview talk.’*Discourse and Communication*. 2010, 4(2), 161-183.
- 8) Clayman, S. E. ‘Agency in response : The role of prefatory address terms.’*Journal of Pragmatics*. 2013, 57, 290-302.
- 9) Sidnell, J. “‘Look’-prefaced turns in first and second position : launching, interceding and redirecting action.’ *Discourse Studies*. 2007, 9(3), 387-408.
- 10) Zwicky, A. H. ‘Hey, Whatsyourname!’ *Chicago Linguistic Society*. 1974, 10, 787-801.
- 11) Brown, P. and Levinson, S. C. *Politeness : Some Universals in Language Usage*. Cambridge University Press, 1987.
- 12) 今井邦彦 (監訳) .『語用論キーターム辞典』 開拓社, 2014. [Allott, N. *Key Terms in Pragmatics*. Continuum Intl Pub Group, 2010.]
- Brown, D. *Angels & Demons* 2000. [*Angels*]
 —. *Deception Point* 2001. [*Deception*]
 —. *Origin* 2017. [*Origin*]
 Grisham, J. *The Firm* 1991. [*Firm*]
 —. *The Litigators* 2001. [*Litigators*]
 Lennard, E. *Charlie’s Angels* 2000. [*Angels*]
 Harrington, W. *The Helter Skelter Murders* 1995. [*Murders*]
 le Carré, J. *The Constant Gardener* 2001. [*Gardener*]
 Paretsky, S. *Brushback* 2015. [*Brushback*]
 Parker, R. B. *Family Honor* 1995. [*Honor*]
 Segal, E. *Love Story* 1970. [*Love*]
 Sheldon, S. *If Tomorrow Comes* 1985. [*Tomorrow*]
 —. *The Sky Is Falling* 2001. [*Sky*]
 Tyler, A. *The Accidental Tourist* 1985. [*Tourist*]
 Weisberger, L. *Revenge Wears Prada* 2013. [*Prada*]
- 〈映画台本〉
The Firm 1997. [*Firm*]
Ghost 1995. [*Ghost*]
Maid in Manhattan 2003. [*Maid*]
27 Dresses 2009. [*Dresses*]
The Verdict 1994/1995. [*Verdict*]

引用作品 ([] 内は本文中の略号)

〈小説〉

Archer, J. *Kane and Abel* 1979. [*Kane*]